

津下一代委員からのご意見

「地域包括ケア」という新しい仕組みに向けて 市町村を中心として関係機関が協議、先進的に実践され成果をあげられたことに対して 敬意を表します。

そのうえで、よりよい事業に向けて、意見と質問を申し上げます。

○立ち上げ段階であることは理解しておりますが、現在の評価はプロセス・アウトプット評価しかなされておられません。

このような取り組みによって、地域住民、医療・介護関係者の意識や行動様式に変化がみられたのか、病院の高齢者の入院日数、在宅復帰率等に変化がみられたのか、またモデル実施していない地域と比較してどうなのかを、評価する仕組みが必要と思われます。

つまり、「地域包括ケアシステムの移行により、どのようなメリットがあるのか」「多数ある課題をどのように克服していったか」を可視化することにより、他の市町村へも広げていくことができると思えます。

○今後の方向性として、住民、介護、医療をつなぐ ICT の利活用が重要と思われます。今回いくつかの地域で導入されていますが、それによる変化・効果はいかがでしょうか。今後、どのようなケアが効果的なのか（介護度の進展を遅らせる、本人の安心・安全につながる、家族の負担を減らす、、等）分析され、知見を公開されることを期待します。

○在宅医療を進めるためには、地域で支え、見守る体制が不可欠です。また本人の介護予防の取り組みも不可欠です。今後は、地域包括支援センターの機能強化による見守り、相談体制の充実、地域の社会資源の育成、介護予防事業（総合事業）、生活支援に重点を置いた取り組みの推進に期待します。介護予防支援センターとしては、市町村・地域包括支援センターの機能強化に向けた研修や相談を充実していきたいと思えます。

○在宅医療の推進も重要ですが、家族の状況等により施設入所が必要な高齢者が増加することも勘案し、愛知県には絶対数が不足している住宅、施設の適切な配備も必要で、今後の検討に期待します。